

令和4年度 グループホームふるさと桜 事業報告

【基本方針】

「満足度の高い認知症介護サービスの提供と地域における中核となる事業所作り」
「感染症、自然災害発生時における、安定した事業運営の準備」

【年間目標】

- ① 新型コロナウイルス感染症や大規模災害の発生に備え、被災時でも安定した事業運営が出来る
- ② 地域包括ケアシステムの推進を図り、地域で安定した事業所運営を行う
- ③ ご入居者の認知機能、身体機能の維持向上を図り、グループホームで長く元気に過ごしていただく
- ④ 職員の育成・定着、ICTを用いた介護業務の改革
- ⑤ 地域のケアマネジャー・事業所とのネットワーク構築、地域のニーズに沿った多様なサービスの整備により稼働率98%を目指す

【実践報告】

- ① 新型コロナウイルス感染症や大規模災害の発生に備え、被災時でも安定した事業運営が出来る

《新型コロナウイルス》

- ・グループホームでの新型コロナウイルス感染者数は、ご入居者0名、職員2名、濃厚接触者はご入居者0名、職員7名であった。基本的な感染対策（マスク着用、手洗い、嗽、消毒）を継続して行うことで、ご入居者への感染を防ぐことが出来た。
- ・感染対策として、面会の方法に制限をかける期間が長く、窓越し面会もしくはオンライン面会の対応となり、室内での面会をしていただく機会を持つことが出来なかった。

《大規模災害》

- ・昨年度に作成をした業務継続計画をもとに、災害対策訓練を2回開催。大地震発生後、避難安全確保、被災状況確認、災害対策本部への情報の収集、備蓄食提供を訓練として実施。その他、開催発生時の避難訓練（日中、夜間想定）を2回実施した。

- ② 地域包括ケアシステムの推進を図り、地域で安定した事業所運営を行う

- ・新型コロナウイルス感染症対策として地域行事への参加や運営推進会議の集合開催が出来なかった。感染状況に合わせて開催された塩屋地域ケア会議や垂水区医療介護サポートセンターが開催する研修会に管理者が参加することが出来た。

- ③ ご入居者の認知機能、身体機能の維持向上を図り、グループホームで長く元気に過ごしていただく

- ・介護計画に沿ったモニタリング、アセスメントを繰り返し行いご入居者の状態把握に努めた。都度支援の見直しは行ったが、身体機能、認知機能が低下したご入居者もおられた。
- ・今年度は2名の入院があり、原因は脳出血と心筋梗塞であった。共に早期の発見ができ、スムーズに入院加療へつなげることが出来たと思われる。

④ 職員の育成・定着、ICTを用いた介護業務の見直し

- ・認知症実践者研修への参加を計画していたが、参加することが出来なかった。
- ・認知症基礎研修は3名実施、残りの対象者は2名となっている。
- ・昨年度より職員間の業務連絡はラインワークスを使用しており、今年度においても継続して使用できている。タブレットの導入をし、業務改善を計画していたが実践することが出来なかった。令和5年度に再度導入を検討したい。
- ・今年度の退職者は4名。常勤職員2名、非常勤職員2名であった。退職理由としては、フィリピンへの帰国、パソコン入力の不慣れ、看護職員の配置がないことへの不安などであった。

⑤ 地域のケアマネジャー・事業所とのネットワーク構築、地域のニーズに沿った多様なサービスの整備により稼働率98%を目指す

- ・地域ケア会議や垂水区医療介護サポートセンターの研修参加など地域のケアマネジャーや病院との接点を持つことで、ふるさと桜の認知度を上げることが出来たと思われる。空床予定を地域のケアマネジャー、病院、老健にアナウンスをすると比較的早期の入居希望者を紹介してもらえることが多くなった。
- 令和4年度稼働率は、98.5%であった。

【神戸市への報告を必要とした事故】

報告件数：0件

【苦情件数】

苦情件数：0件